



JR東日本は地域の声に耳を傾け、 公共交通機関の使命を果たせ！

“改悪”とも言える今回のダイヤ改正で、栃木県内では日光線のみならず、東北本線においても問題が発生しています。

5月19日、地元紙の下野新聞が「ダイヤ改正により、高校の授業時間を繰り上げざるを得ない事態となっている」ことを報じました。



下野新聞の
記事はこちら↑

ダイヤ改正で、16時台の
上り電車がなくなった。

15時台の上り電車に
間に合わせるため、授業
時間を繰り上げた。



不満や改善要望の声が拳がっている！

- 放課後に余裕がない。
- 元に戻してほしい。
- 教育面に影響が出ている。

しかし、JR東日本大宮支社は「改めてダイヤ改正はしない」と説明！

JR東日本では“新たな組織と仕事を創ろう！”と称して「組織再編」が行われています。その中では「現場、お客さまに近い場所でお客さまのニーズに寄り添い…」とか「安全や地域との関係を維持しながら…」などと謳われています。

しかし、今回の件に関する一連の対応は、まさに“顧客軽視”の姿勢そのもの！

快適性や利便性が失われれば、公共交通としての鉄道の利用価値は低下します。ましてや子どもたちの教育環境にまで影響を与えることは言語道断です。

三陸鉄道では、高校生の提言から“下校時に合わせた列車の実証運転”を始めました。地域と連携して考えることも、公共交通機関として当然の使命です！

通学利用は地方の鉄道輸送の根幹である！

誰のための鉄道、誰のためのダイヤ改正なのか!?

これ以上の顧客軽視の経営姿勢は許されない!